

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第34週 (8/23-8/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	34週	33週	32週	31週
小児科	17	17	17	16
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	27	27	26	25
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	8/23-8/29	8/16-8/22	8/9-8/15	8/2-8/8	8/16-8/22
			34週	33週	32週	31週	33週
小児科	RSウイルス感染症		6	8	19	19	135
			0.35	0.47	1.12	1.19	1.04
	咽頭結膜熱		1	0	0	0	11
			0.06	0.00	0.00	0.00	0.08
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	3	6	5	34
			0.18	0.18	0.35	0.31	0.26
	感染性胃腸炎		17	14	28	41	173
			1.00	0.82	1.65	2.56	1.33
	水痘		0	1	3	1	7
			0.00	0.06	0.18	0.06	0.05
手足口病		2	4	1	0	16	
		0.12	0.24	0.06	0.00	0.12	
伝染性紅斑		0	1	0	0	1	
		0.00	0.06	0.00	0.00	0.01	
突発性発しん		7	13	11	7	42	
		0.41	0.76	0.65	0.44	0.32	
ヘルパンギーナ		3	0	1	0	22	
		0.18	0.00	0.06	0.00	0.17	
流行性耳下腺炎		0	2	0	2	12	
		0.00	0.12	0.00	0.13	0.09	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
	流行性角結膜炎		0	1	0	0	8
			0.00	0.20	0.00	0.00	0.24
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(1527件)

※新型コロナウイルス感染症1524件は件数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査等	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第34週は、結核2件(95)、梅毒1件(29)、新型コロナウイルス感染症1524件(14110)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第34週のコメント

調査対象の全ての感染症について、過去10年の同時期と比べると平均未満又は発生報告がなかった。

■ トピック ■

<梅毒>

第33週の全国の累積届出数は4203件で、過去10年の同時期と比べると最も多くなっています。都道府県別では、東京都(1389)、大阪府(437)、愛知県(210)の順で多くなっています。千葉県は125件で全国第8位となっています。

千葉市では第34週に1件の発生届があり、2021年の累積届出数は29件となりました。

2011年から2021年第34週までの届出件数は226件で、2019年までは増加傾向にあり、2020年は減少しましたが、2021年は第26週で前年を上回りました。男女比は、2019年までは男性が半数を上回っていましたが、2020年に男女同数となり、2021年は女性が6割近くを占めています(図1)。

2021年の累積届出数は、過去10年と比べて最多で推移しており(図2)、年齢階級別では10歳代及び20歳代で圧倒的に女性が多くなっています(図3)。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染予防対策の徹底に伴い、市内では多くの感染症の発生報告が減少した一方で梅毒等の性感染症が増加しているため注意が必要です。対策としては検査による早期発見と治療が大事です。併せて性感染症の基本的な予防対策としてコンドームを正しく装着することが重要です。

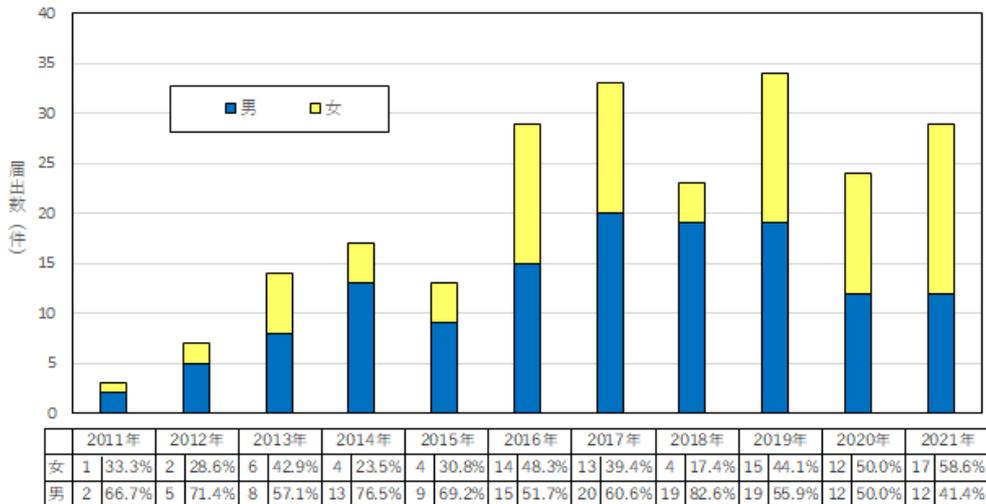


図1 年別・性別の届出数
(2011年-2021年第34週 n=226)

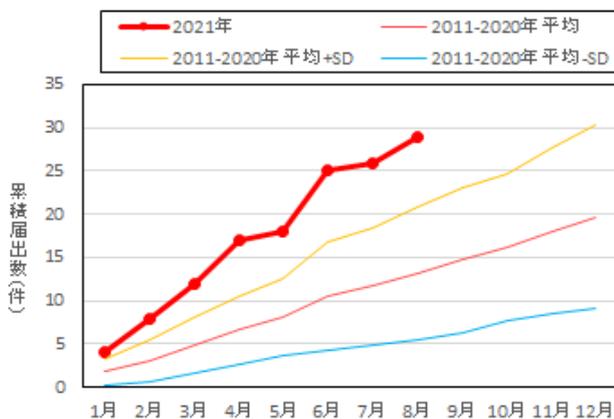


図2 過去10年との比較
(千葉市:月別 2021年第34週現在)

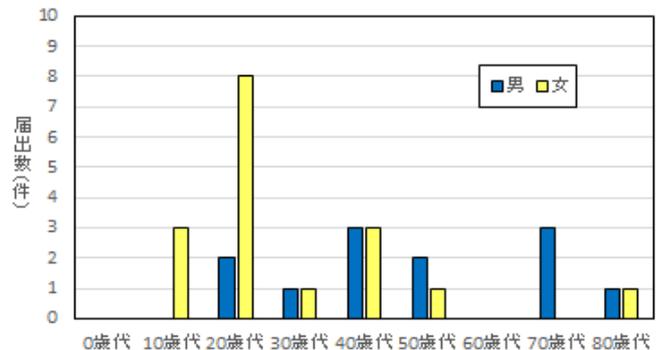


図3 性別・年齢階級別
(2021年第1週-第34週 n=29)